

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	学舎 P&A 第二教室		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 25日		～ R8年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	R8年 2月 25日		～ R8年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援を主軸とした療育を実施している。 利用児童一人ひとりの特性や発達段階に応じ、ご本人のペースに合わせた支援を行うことで、安心して取り組める環境を整えている。 支援内容については、学習支援を中心としたプログラムを実施し、基礎的な学習習慣の定着や、学びにつながる経験を段階的に積み重ねることを目的としている。 また、支援の効果を高めるため、家族支援も重要な要素として位置付けている。	特別に独自の取り組みを設けているわけではないが、利用者一人ひとりのニーズに寄り添った支援を行うことを常に意識している。支援プログラムに記載された内容を基盤とし、職員一人ひとりがその内容を適切に理解し実践できるよう努めている。また、職員が円滑に支援を行えるよう、日常的なサポートや共有を行うことも重要な業務の一環として位置付けている。	地域の教育機関等と連携を図り、多様な分野の学びを経験できる機会の提供に努めている。 また、その実現に向けて、関係機関との連携強化を目的とした営業・調整活動にも積極的に取り組んでいる。
2	利用者が安心して活動に取り組めるよう、環境整備にも力を入れております。 集中しやすい環境づくりを目的とし、事業所内を常に整理整頓された状態に保つことを心掛けています。 また、物品を必要最小限にすることで活動スペースを確保するとともに、転倒等の事故防止など安全面の強化にもつなげています。	余計な物は置かず、整理整頓された空間を維持することで、利用者が療育や学習に集中できる環境づくりを心掛けています。視覚的な刺激を必要最小限に抑えることで、落ち着いて活動に取り組める空間を提供し、安心して過ごせる事業所運営を行っている。また、人は良い環境の中で学ぶことで、個人差はあるもののそれぞれのペースに応じて必ず能力を伸ばしていくと考えている。そのため利用者一人ひとりの特性や状況に配慮しながら集中して活動できる環境整備を継続的にを行い、安心して学びや経験を積み重ねられる支援体制を整えている。	事業所全体が常に高い意識を持ち、継続して質の高い業務を遂行できるよう、職員一人ひとりが安心して働ける職場環境づくりを重視している。業務の効率化や職員間の円滑な連携を図るとともに、職員のモチベーション維持・向上にも配慮し、環境整備や福利厚生面の充実にも積極的に取り組んでいきたいと考えている。これにより、安定した運営体制を確立し、利用者に対して継続的かつ質の高い支援を提供できる体制を整えていく。
3	スタッフ教育や人材採用についても妥協することなく取り組み、職員一人ひとりの専門性や支援力の向上を図っています。継続的な研修や指導体制の整備を通じて、質の高い人材の確保と育成に努めています。これらの取り組みにより、利用者一人ひとりの状況やニーズに応じた、質の高いサービス提供を常に心掛けています。	働く職員一人ひとりが心身のゆとりを保ちながら安定して勤務を継続できるよう、一定程度の私的時間を確保できる勤務体制を意識し、就業時間は過度な負担とならないよう配慮した設定としている。	業務外における職員間の交流機会として、食事会等の場についても、参加は任意としつつ、希望者が気軽に参加できる機会として提供している。こうした取組を通じて、円滑なコミュニケーションの促進や相互理解の深化を図り、職場全体の連携強化につなげている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育を主軸とした支援を実施しているため、利用者の急な欠席等が生じた場合には、予定していた療育時間に空きが生じることがあります。その際には時間を持て余す状況が発生する場合がありますが、スタッフ間で情報共有を行い、支援内容の見直しや環境整備、教材準備などを行うことで、次の療育の質向上につながる時間として有効活用するよう努めています。これにより、利用者一人ひとりに対してより充実した支援を提供できる体制づくりを意識しています。	集団活動のレパートリーを拡充し、活動内容の精度をさらに高めるためには、適切な人員体制の確保が重要な要素であると考えている。そのため、必要に応じたスタッフの増員を視野に入れ、より質の高い支援体制の構築を目指す。また、職員一人ひとりの支援力向上を図るため、研修機会の充実や学びの場を設けることも重要である。加えて、職員が安心して業務に取り組めるよう、働きやすい環境整備や職場環境の改善にも継続的に取り組み、事業所全体として安定した支援の提供ができる体制づくりを進めていく。	求人活動には積極的に取り組み、支援体制の充実を図るためスタッフの増員を目指していきます。一方で、採用にあたっては拙速な判断を避け、福祉支援に必要な適性や姿勢を十分に見極めたうえで人選を行います。万が一、福祉職としての適性が十分でないと判断された場合には、利用者への支援の質を維持する観点から雇用の継続を見直すこともあります。利用者の安全はもちろんのこと、心身両面における安心・安全な支援環境を守ることを最優先とし、適切な人材配置に努めていきます。
2	利用者の希望として個別での活動を望まれるケースが多く、現状として集団活動への参加機会は比較的に少ない状況にある。現在も集団活動の機会は継続して提供しているが、参加人数は限定的である。そのため、利用者一人ひとりのニーズや特性を尊重しつつ、無理のない形で集団活動に参加できる環境づくりや声かけを行い、今後も活動機会の充実と参加促進に努めていく。		長期休暇期間や祝日等を活用し、利用者同士の関わりや社会性の向上を目的とした集団活動の機会を計画的に設定している。また、支援内容が特定の分野に偏ることのないよう、支援プログラムに基づきバランスを意識した活動内容の実施に努めている。
3			